



三多摩支部 第 5 回定期委員会【委員会宣言】

委員会宣言~~(案)~~

私たちは、本日ここ「オープンイノベーションフィールド多摩八王子館」において第 5 回定期委員会を開催し、「生きがい・働きがい実現のための“2025 JTSU 春闘”勝利！」と「笑顔と活気あふれる職場づくりのための“日常活動”強化！」を、満場一致で確認した。JR 東日本で安心して働き続けるために、不当労働行為を許さず、年功型賃金の維持・定期昇給の完全実施・一律 15,500 円のベースアップを求め「2025 JTSU 春闘」を、全ての仲間と共に職場から創り上げる。

ジョブローテーションや統括センター化などの会社施策によって、一人何役もの業務をこなす複務化が進み、部門毎の専門性は薄められ、経験による知識・技能と安全性が急速に低下している。過度な効率化と要員の縮減は、労働密度、休日出勤を含む超過勤務、突発的な勤務変更などを増加させている。つねに最前線に立たされる私たちは、この劣悪な条件下でなお様々なトラブルに対応し、旅客による暴言や暴力に晒される。肉体も精神もすでに限界だ。若手社員からも会社への疑問や失望の声が聞こえ、離職も後をたたない。JR 東日本は、私たちの指摘だけでなく地域や利用者の声すら聞かずに、ワンマン運転などの施策を強行している。組合ホームページにも、安全性に対する疑問や不安が寄せられている。これからの駅・鉄道輸送の在り方を考え、ビラ配布行動や関係議員なども通じて社会に発信していかなければ、利用者の信頼を失ってしまう。金儲けにのみひた走り、社員と利用者の命を脅かす会社施策は改めさせなければならない。

企業の不祥事が世間を騒がせる昨今、JR 東日本も同様に、輪軸圧力データ改ざん・新幹線区間走行車両の保安装置の速度設定誤り・中央線を含む車両モーター検査の検査方法の不正が発覚した。それでも経営陣は“融合と連携”の推進による“変革 2027”の早期実現に躍起になり、労働組合を「経営に意を唱える集団・不必要で非生産的な集団」と描き出す。社友会を「経営のパートナー」と位置付け、その実行部隊として利用している。私たち輸送サービス労組は、犯罪には加担も傍観もしない。社友会には到底できない労働者の運動を堂々と推し進めよう。

「JR 東日本八王子駅パンフ配布処分事件」は、都労委による処分撤回の完全勝利命令を、履行しない会社がそれを不服とした求めによって、現在は中央労働委員会で調査が続いている。「JR 東日本八王子支組組合員差別事件」は、都労委が双方に示した和解案の審議は中断となり、今後は 2 人の仲間の審問に進む。会社の不法行為をなかったことにせず、組合員の利益のためにたたかっていく。

結成から 5 年、組合員の利益を守るために支部・分会を結成した。激動のコロナ禍を乗り越えてきた私たちは自覚する。経営のワンマン化が顕著になった今だからこそ、団体交渉、街頭ビラ配り、第三者機関をも活用する輸送サービス労組運動が、日々の私たちの存在が求められていることを。

職場から、全組合員の総力で、日常活動を強め・組織の拡大を実現するぞ！

安全で働きがいある会社を、社員・利用者・地域から信頼される健全な JR 東日本を取り戻すぞ！

以上、宣言する。

2025 年 3 月 7 日
JR 東日本輸送サービス労働組合
八王子地方本部三多摩支部
第 5 回定期委員会

結成から 5 年、
労働運動を職場から堂々と推し進めよう！！